

2016年度事業報告書

社会福祉法人 福医会

平成 29 年 5 月 24 日

法人本部・管理部 28 年度事業報告

1. 総括

介護報酬並びに診療報酬改定が実施される度に、引下げが行われる昨今において、収支状況の安定化、財務基盤の強化は当法人において毎年の課題でありました。

外に目を向ければ、ニュース等において老人福祉・介護事業における倒産が過去最高を記録したとの報道を耳にするにあたり、社会福祉に求められる社会的ニーズの拡充に対し、反比例する形での福祉運営の難しさを感じさせる年でもありました。

そのような中で、当法人の中核施設の一つであるクリニック事業において設立から満6年、事業活動、資金収支の両面で初めて黒字化を達成できたことは、大きな成果であったと考えます。全事業を通して、人員配置の見直し、職員の雇用環境・要望に沿った形での労働契約の見直し等、各事業所の実情に応じた正職員比率の再構築を少しずつ行った結果、事業活動費における人件費率は28年度において51.6%と目標とする人件費率55%以内を達成できました。今後は、来期からの導入を予定している人事考課により、単一的な昇給形式ではなく、職員の昇給・昇格において、より公正で納得できる評価を行い、人件費の更なる有効活用に繋げていきたいと考えます。

一方で、職員の資質向上における取組は必要なレベルに達しているとは言えず、今後、強化すべき課題となっています。

高齢化社会が急速に進展する中、老人福祉を担う社会福祉法人の重要性はますます高まっている一方で、「過剰な内部留保金をもっている」「一部法人では同族経営が常態化しており、経営ありが不透明である」といった一部報道・指摘もある中で、今回、社会福祉法の改正が行われました。(施行 29.4.1)

(1) 経営組織のガバナンス（統治）の強化

- ・議決機関として評議会を必置
- ・一定規模以上の法人への会計監査人の導入等

(2) 事業運営の透明性の向上

- ・財務諸表・現況報告書の公表に係る規定の整備

(3) 財務規律の強化

- ・役員報酬基準の作成と公表、特別の利益供与の禁止
- ・社会福祉充実残額の明確化（内部留保の明確化）
- ・社会福祉充実残額を保有する法人へ福祉・公益事業等への充実残額の再投下計画作成の義務付等

(4) 地域における公益的な取り組みを実施する責務

- ・社会福祉事業及び公益事業を行うに当たって、無料又は低額な料金で福祉サービスを提供することを責務として規定

上記項目に準備・対応すべく、29年1月～3月にわたり、集中的に評議員会・役員会を開催し、各項目への準備を行いました。

○平成 29 年 1 月 定款変更

- 平成 29 年 3 月 評議員選任・解任委員会設立
- 役員報酬規程改訂
- 定款施行細則改訂
- 改正法に基づく、評議員選出

《次年度への課題》

・人事（雇用・育成）に関する活動は近年の課題である。当法人の正規職員の平均年齢は 47 歳と高く、計画的な採用計画が今後必要になることが予測され、加えて職員のスキルアップを含めた資質向上を目指す研修計画など、採用・育成人事の確立、職員処遇改善の方策の立案、それを担う人事委員会（262 委員会）の有効的な活動を来年度こそ行う必要があります。

・総務課を中心に各事業部の情報管理におけるライセンスソフトの導入行っているが、多大な取得費用に対する費用対効果（業務の効率化）が十分に得られていません。所有する人事・労務・給与・介護請求・診療報酬・措置管理ソフト（導入予定）の能力を十分に活用できることによって、法人の運営管理に役立てることが必要になります。

また、近年の個人情報の取扱う質・量とも増大する中で、今件に関するセキュリティの確認・強化も次年度の課題であると考えます。

・当法人における超過勤務は社会的に見ても問題ないと考えます。36 協定における 45 時間以上残業を行わなければならない事業所は一つもなく問題ないと考えますが、もう一つの有給休暇取得率に関しては、低いのが現状です。また、職員毎、事業所毎にバラツキがあり、これを平準化・平等性のある取得を実現させるために、一部有休に関し計画取得を実施していきます。

・西海医療福祉センター建設時に取得した固定資産に関しては、ある程度把握しているものの、その後購入・取得した固定資産に該当する資産について、正確な把握及び台帳整備が未整備な状況です。今案件についても、法人会計の整備がほぼなされる中、残っている大きな課題の一つとなっています。

来年度において、解決しなければならないと考えています。

2. 運営事業

第 1 種社会福祉事業

- 特別養護老人ホームさいかい
- 養護老人ホームさいかい

第 2 種社会福祉事業

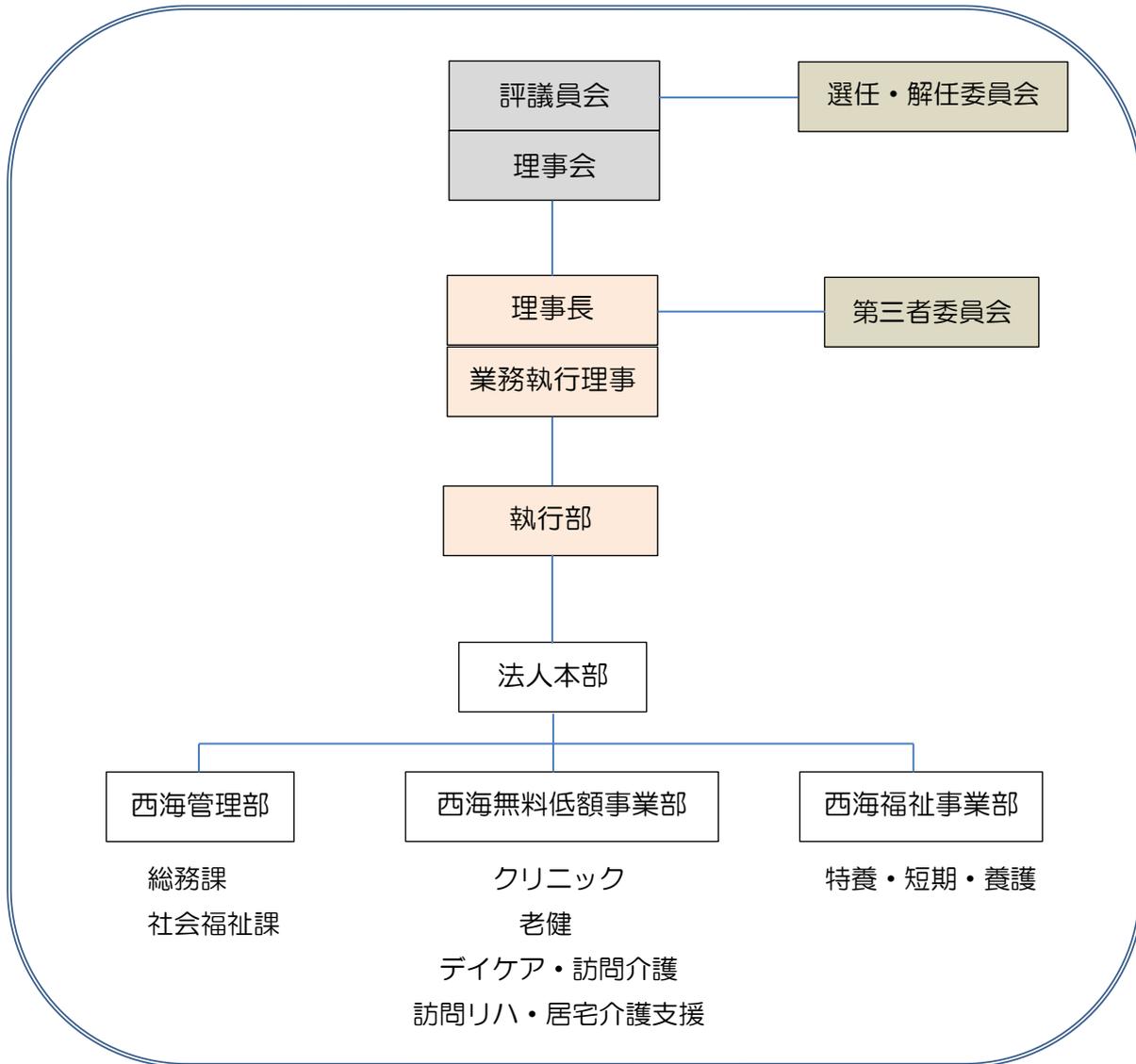
- 短期入所生活介護さいかい
- デイケア（通所リハビリテーション）さいかい
 - ・ 訪問リハビリテーション
- 訪問介護さいかい
- 居宅介護支援さいかい
- 無料低額診療事業の実施に拠る第 2 種社会福祉事業
 - ・ 介護療養型老人保健施設さいかい
 - ・ さいかいクリニック

3. 事業所在地

- ① 長崎県西海市大島町1876番地59（通称：西海医療福祉センター）
- ② 長崎県西海市崎戸町蠣浦郷2060番地6（養護老人ホームさいかい）
- ③ 福岡県福岡市早良区百道浜1丁目3番70号-3505

4. 組織

(1) 事業編成



(2) 役員状況

理事：定員6名 監事：定員2名

役職名	氏名	住所	備考
理事長	馬場裕基	東京都港区	(兼) 評議員
専務理事	山田直樹	長崎県佐世保市	(兼) 評議員
常務理事	徳永 翔	長崎県西海市	(兼) 評議員
理事	久間博史	長崎県長崎市	(兼) 評議員
理事	前田勝範	長崎県西海市	(兼) 評議員

理事	品田英昭	長崎県西海市	(兼) 評議員
会計監事	野口末裕	長崎県佐世保市	
業務監事	宮津柳二郎	長崎県西海市	

評議員：定員 13名

役職名	氏名	住所	備考
評議員	馬場裕基	東京都港区	(兼) 理事
評議員	山田直樹	長崎県佐世保市	(兼) 理事
評議員	徳永 翔	長崎県西海市	(兼) 理事
評議員	久間博史	長崎県長崎市	(兼) 理事
評議員	前田勝範	長崎県西海市	(兼) 理事
評議員	品田英昭	長崎県西海市	(兼) 理事
評議員	村山一正	長崎県西海市	
評議員	中尾祐二	長崎県佐世保市	(新任)
評議員	川添大輔	長崎県西海市	
評議員	力武征敏	長崎県西海市	
評議員	山口増治	長崎県西海市	
評議員	畝本一馬	長崎県西海市	(新任)
評議員	原田榮次	長崎県西海市	(新任)

(3) 理事会・評議会開催状況

・平成 28 年 5 月 25 日	評議員会	出席者	14 名	欠席者 1 名
	理事会	出席者	8 名	
・平成 28 年 11 月 11 日	評議員会	出席者	11 名	欠席者 4 名
	理事会	出席者	7 名	欠席者 1 名
・平成 29 年 1 月 18 日	評議員会	出席者	14 名	欠席者 1 名
	理事会	出席者	7 名	欠席者 1 名
・平成 29 年 3 月 1 日	評議員会	出席者	15 名	
	理事会	出席者	8 名	
・平成 29 年 3 月 29 日	評議員会	出席者	14 名	欠員 1 名
	理事会	出席者	8 名	

(4) 監査・調査状況

平成 28 年 5 月 18 日	法人内部監査 (会計・経理・決算監査/業務監査)
平成 28 年 6 月 22 日	西彼保健所 給食業務 実地検査
平成 28 年 9 月 16 日	九州厚生局 クリニック個別指導監査
平成 28 年 10 月 25 日	長崎県指導監査 特養さいかい・居宅さいかい
平成 28 年 11 月 15 日	長崎県指導監査 老健さいかい デイケアさいかい
平成 28 年 12 月 6 日	長崎県指導監査 養護さいかい

(5) 創立記念式典

日時 平成 28 年 11 月 11 日 19:00～

場所 ホテル日航ハウステンボス

出席者 来賓 12 名：役員・評議員 9 名 職員 81 名

(6) 職員入退職状況（対象期間平成 28 年 3 月 16 日～29 年 3 月 15 日）

事業所名	入職者	退職者
特別養護老人ホームさいかい(短期舎)	補助員 3 名 介護士 1 名 介護職員 1 名	補助員 1 名 介護士 2 名 介護職員 4 名 ケアマネ 1 名
養護老人ホームさいかい	支援員 2 名 事務員 1 名 管理栄養士 1 名	支援員 1 名 管理栄養士 1 名
デイケアさいかい（訪問リハビリ舎）	理学療法士 1 名 介護士 1 名 支援員 1 名	理学療法士 1 名 相談員 1 名 介護士 1 名
訪問介護さいかい（居宅支援舎）	介護職員 1 名	
さいかいクリニック	看護師 1 名 准看護師 1 名 看護助手 1 名 医療事務 1 名	検査技師 1 名 准看護師 1 名 診療事務 1 名
介護療養型老人保健施設さいかい	看護師 1 名 介護士 1 名	相談員 1 名 介護職員 1 名
管理部総務課	事務員 2 名	補助員 1 名
合 計	21 名	19 名

社会福祉法人 福医会

西海福祉事業部 介護福祉課

特別養護老人ホーム さいかい

短期入所生活介護 さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：介護福祉課 課長 川添 大輔

特別養護老人ホームさいかい 2016年(4月から3月)における事業実績(計対比)

	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	49.5人	48.1人	18,838,000円	18,239,839円	96.8%
5月	49.5人	49.1人	19,465,000円	19,485,330円	100.1%
6月	49.5人	47.8人	18,838,000円	18,202,531円	96.6%
7月	49.5人	47.6人	19,466,000円	18,443,435円	94.7%
8月	48.5人	49.9人	19,153,000円	19,380,181円	101.1%
9月	48.5人	49.0人	18,521,000円	18,240,334円	98.4%
10月	49.0人	49.5人	19,362,000円	19,199,573円	99.1%
11月	49.0人	49.0人	18,649,000円	18,567,459円	99.5%
12月	48.5人	48.9人	19,092,000円	19,121,253円	100.1%
1月	48.5人	47.4人	19,138,000円	18,692,399円	97.6%
2月	49.0人	46.7人	17,467,000円	16,613,299円	95.1%
3月	49.0人	47.5人	19,282,000円	18,553,500円	96.2%
平均	49.0人	48.4人	18,933,000円	18,561,594円	98.0%
合計	588.0人	580.5人	227,192,000円	222,739,133円	98.0%

短期入所生活介護さいかい 2016年(4月から3月)における事業実績(計対比)

	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	6.9人	7.6人	2,475,000円	2,790,245円	112.7%
5月	6.9人	7.1人	2,572,000円	2,636,605円	102.5%
6月	7.0人	7.2人	2,510,000円	2,624,604円	104.5%
7月	6.9人	6.6人	2,558,000円	2,463,891円	96.6%
8月	6.8人	6.7人	2,533,000円	2,586,385円	102.6%
9月	6.8人	7.6人	2,438,000円	2,705,924円	110.9%
10月	6.9人	6.8人	2,558,000円	2,590,246円	101.2%
11月	7.0人	7.5人	2,510,000円	2,570,133円	102.3%
12月	6.9人	6.7人	2,572,000円	2,532,105円	98.4%
1月	6.8人	6.9人	2,519,000円	2,605,305円	103.4%
2月	6.9人	7.4人	2,391,000円	2,515,060円	105.1%
3月	7.0人	7.2人	2,610,000円	2,700,720円	103.4%
平均	6.9人	7.2人	2,520,000円	2,605,555円	103.3%
合計	82.8人	85.1人	30,246,000円	31,266,668円	103.3%

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1. 施設運営の安定化

【特別養護老人ホームさいかい】

事業実績は、当初計画目標に対し、下回る結果となった。

1日平均入居者数は、計画49.0名に対し、実績48.4名。入居稼働率は、計画98.0%に対し、実績96.4%。平均介護度は、3.79度。計画額227,192,000円に対し、実績222,739,133円。計画達成率は、98.0%。

2016年度退居者15名であったが、そのうち数名が円滑な入居が出来なかった事、看護師休職に伴い加算算定できない期間があった事、平均介護度が0.11度減少した事等が要因と考えられる。

【短期入所生活介護さいかい】

事業実績は、当初計画以上に推移した。

1日平均利用者数は、計画6.9名に対し、実績7.2名。利用稼働率は、計画86.3%に対し、実績88.8%。平均介護度は、2.77度。計画額30,246,000円に対し、実績31,266,668円。計画達成率は、103.3%。

利用者ニーズに応じて、ショート・ミドル・ロングそれぞれの利用期間毎の配置を予定より隙間なく行え、新規利用者獲得のみならず、リピーターの獲得が出来た事が目標達成に繋がった。

2. 福利厚生 of 充実と困難な介護職員の確保

介護職員教育計画は、人員不足等により、目標通り進捗できなかった為、個々の能力・スキルの向上や、スーパーバイザーの負担軽減・職員ストレス低下に至らなかった。

キャリアアップ試験等における有資格者増員は、介護福祉士資格4名取得し、マンパワーの拡充ができた。

課題として、介護職員教育計画の精度を上げ改善・明確化し、更なる具体的構築を図り運用していくことで、処遇改善加算手当を通じて金銭的優遇を図る。

また、人事考課システム構築による実評価により、素質や特性の見極め、賞与の支払いをすることでも、離職率低下と介護職員の確保に繋げる。

3. 入居待機者の確保と地域への発信

医療福祉関係事業所や地域等への働きかけを行い、待機者を獲得するも、直接入居に繋がる事が少なく、満足できる効果を得られなかった。また、既に待機者として申込み頂いても、入院や死亡、他施設への入居により待機者総数が減少していった。

短期入所生活介護では、レクリエーションやイベントを行い、セミパブリックスペースとしての機能を果たせる。また地域のボランティア等を受け入れることで、地域への貢献と周知に繋がった。

今後は、法人内での相談員レベルでの連携を基に、法人内事業所を利用される方々のニーズに応えると共に、周知活動内容の充実と頻度を検討し、新たに活動エリア及び拠点を開拓・増加していく。

以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 老人福祉課

養護老人ホームさいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：老人福祉課 課長 前平義昭

養護老人ホームさいかい 2016年（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	38人	38人	7,030,000円	6,697,383円	95.2%
5月	40人	39人	6,920,000円	6,759,464円	97.6%
6月	39人	40人	6,747,000円	7,039,373円	104.3%
7月	38人	39人	6,574,000円	6,790,592円	103.2%
8月	40人	37人	6,920,000円	6,405,416円	92.5%
9月	39人	38人	6,747,000円	6,631,154円	98.2%
10月	38人	37人	6,574,000円	6,452,256円	98.1%
11月	41人	37人	7,093,000円	6,556,658円	92.4%
12月	41人	37人	7,585,000円	6,648,975円	87.6%
1月	40人	37人	6,920,000円	6,628,918円	95.7%
2月	44人	39人	7,612,000円	6,927,923円	91.0%
3月	42人	39人	7,266,000円	6,933,212円	95.4%
平均	40人	38人	6,999,000円	6,705,943円	95.8%
合計	480人	457人	83,988,000円	80,471,324円	95.8%

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1. 安定した施設経営

2016年度に於いて、入所者数確保に努め目標を掲げていた部分には到達出来なかった。原因として、外部関係機関との連携不足も考えられるが潜在的対象者の情報収集や情報提供の働きかけを実行せず、結果として月平均38名にとどまり計画達成とはならなかった事で、引き続き入所者確保に向けての活動を重視すると共に連携強化に努めていく事が課題である。

2. 安全で安心な生活環境の提供

建物の老朽化による修復・改善を行ってきた。非常時に備えた機器の交換及び災害時に必要な物品の購入を行った。今後も、引き続き防災関連における物品の購入や災害対策に講じた訓練の実施強化を行う。入所者共用部における施設備品の修繕・交換を実施。

- 各居室並びに室内のカーテンを防災仕様に交換
- 談話室・面談室の家具の新調
- 来客者及び御家族との相談窓口としてのロビーの確立

- 厨房機器の交換（冷蔵・冷凍庫・食器乾燥機等）
- 災害用（ヘルメット新調・拡声器）としての必要物品の購入
備蓄用備品の購入

3. 職員への意識向上及び会議等の充実化

各委員会・会議は達成出来ているも専門性を用いた発言や行動が伴っておらず情報の共用や意識向上には繋がらなかった。施設内外の研修参加にも意欲は感じられず個々のスキルアップ能力が欠けていた事でサービスの質も低下している。パソコン機器の導入を図るも使用出来る職員が少なくアナログ化している状況で業務の効率化が図れなかった。

課題として、外部研修の積極的参加や会議等での専門性を用いた発言・行動の明確化。サービス向上の質を上げる取組を行っていく。導入機器の使用頻度を上げ業務の効率化を図り有効活用する。

以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 在宅支援課

デイケア さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：在宅支援課 課長代理 浅田 幸治

デイケアさいかい 2016年（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画延 人数	実績延 人数	差異	年次計画金額	実績金額	差異	計画達成 率
4月	560	552	-8	¥5,135,231	¥4,929,588	¥-205,643	96%
5月	560	567	7	¥5,135,231	¥4,982,766	¥-152,465	97%
6月	560	587	27	¥5,135,231	¥5,169,110	¥33,879	100.6%
7月	560	573	13	¥5,135,231	¥4,995,971	¥-139,260	97.3%
8月	560	530	-30	¥5,118,687	¥4,485,217	¥-633,470	87.6%
9月	560	548	-12	¥5,135,231	¥4,822,276	¥-312,955	93.9%
10月	580	529	-51	¥5,312,394	¥4,500,925	¥-811,469	84.7%
11月	560	536	-24	¥5,126,959	¥4,951,415	¥-175,544	96.6%
12月	580	507	-73	¥5,312,394	¥4,459,317	¥-853,077	83.9%
1月	560	470	-90	¥5,118,687	¥4,057,260	¥-1,061,427	79.3%
2月	520	441	-79	¥4,772,634	¥3,928,200	¥-844,434	82.3%
3月	580	500	-80	¥5,135,231	¥4,328,200	¥-807,031	84.3%
合計	6,740	4,929	-151	¥61,573,141	¥55,610,245	¥-14,219,296	90.3%

※2017/3/1 現在（3月は推定）

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1 事業の安定

職員配置によりサービス提供体制加算（I）を継続し算定できている。

利用者本位の都合等（体調不良・入院・家族行事等）による利用日の振替については、ケアマネージャーを介して事前調整を積極的に打診したが、目標であった1日23名以上の利用者確保には至らなかった。

2 組織体制の構築

職員の退職や異動等により、不測の組織編制を行うなど体制が定まらない期間が続いた。これに伴い、業務への影響、収入の減少に繋がった。

3 サービスの質の向上

施設外研修には積極的に参加し、伝達講習を通じ各職員に周知するなど事業所全体でのスキルアップを行った。

介護職員教育計画における研修は、日常業務に終われ進捗に至らなかったことから2017年度も引き続き推し進めることとし収入増に繋げていく。

以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 在宅支援課

居宅介護支援事業所 さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：在宅支援課 課長代理 浅田 幸治

居宅介護支援事業所 さいかい

2016年（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	21	23	¥214,950	¥217,730	101.3%
5月	22	23	¥225,370	¥217,730	96.6%
6月	23	21	¥235,790	¥207,310	87.9%
7月	26	22	¥263,180	¥193,780	73.6%
8月	27	18	¥273,600	¥217,600	79.5%
9月	28	21	¥284,020	¥183,250	64.5%
10月	29	22	¥307,970	¥251,990	81.8%
11月	30	22	¥307,970	¥247,880	80.5%
12月	31	21	¥318,390	¥228,240	72.7%
1月	31	20	¥318,390	¥204,200	64.1%
2月	34	18	¥355,870	¥189,470	53.2%
3月	34	18	¥355,870	¥189,470	53.2%
合計	336	249	¥3,461,370	¥2,548,650	73.6%

※2017.3.1 現在(3月は推定)

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1 利用者の安定確保

法人内外の施設サービス事業所への入居及び死亡等による利用契約解除により、利用者増に結びついていない。今後、地域ケア会議等に参加するなど情報収集を行い利用者獲得に繋げる。

2 自立支援と医療・介護の連携

公平公正な立場においてマネジメントを行っており利用契約者や各関係機関からの苦情等はない。引き続き利用者ニーズを汲み取り関係各所との連携を図り最新最善のプランニングを行っていく。

3 人財育成

定期的な地域ケア会議や長崎県や西海市が主催する研修会に参加し、スキルアップを図っているが、他の居宅介護支援事業所及び地域連携室等の交流に参加し自己研鑽を図っていく。

以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 在宅支援課

訪問介護 さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：在宅支援課 課長代理 浅田 幸治

訪問介護 さいかい 2016年(4月から3月)における事業実績(計画対比)

	計画稼働数	実績延人数	差異	年次計画金額	実績金額	差異	計画達成率
4月	308	303	-5	¥986,360	¥1,292,870	¥306,510	131%
5月	328	287	-41	¥1,055,375	¥1,235,090	¥179,715	117%
6月	348	289	-59	¥1,124,390	¥1,154,660	¥30,270	102.7%
7月	376	305	-71	¥1,218,764	¥1,285,495	¥66,731	105.5%
8月	396	287	-109	¥1,287,779	¥1,269,815	¥-17,964	98.6%
9月	416	294	-122	¥1,356,794	¥1,228,142	¥-128,652	90.5%
10月	444	312	-132	¥1,451,168	¥1,338,472	¥-112,696	92.2%
11月	464	297	-167	¥1,520,183	¥1,240,310	¥-279,873	81.6%
12月	484	337	-147	¥1,589,198	¥1,327,660	¥-261,538	83.5%
1月	512	368	-144	¥1,683,572	¥1,229,300	¥-454,452	73.0%
2月	512	290	-222	¥1,683,572	¥884,856	¥-798,716	52.6%
3月	512	397	-155	¥1,683,572	¥1,319,840	¥-363,732	78.3%
合計	5,100	2,711	-151	¥16,640,727	¥14,806,510	¥-1,834,397	89.0%

※2017.3.1現在(3月は推定)

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1 収入面の増大

加算算定の見直しを随時行っていたが算定にはいたらなかった。

自費サービスに関しては、パンフレット等を活用したが、利用者への周知にはつながらずサービスの利用増加には至っていない為、次年度も引き続き、加算算定の見直しと自費サービスの各関係事業への周知を行っていく。

なお、各関係事業所との関係性は良好であり、居宅介護支援事業所からの訪問介護利用開始依頼は絶えずある状況にある。また、早朝・夜間の利用に関してもサービスの需要が多くある為、訪問介護事業所のサービス内容の周知強化に努め利用者増加に努めていく。

2 登録ヘルパーの安定確保

現在、法人内の異動等により訪問介護稼働はまかなえているが、訪問ヘルパーに関しては、介護福祉士以外でも加算算定可能であることから、管理部等と連携を図り人材の確保を図っていく。

3 人材育成

介護職員教育計画による研修を実施できなかった。本年度については、当事業所のみならず、事業所内及び施設外研修等に積極的に参加し、スキルアップを図っていきたいと考えている。

以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 在宅支援課

訪問リハビリテーション さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日
作成責任者：在宅支援課 課長代理 浅田 幸治

訪問リハビリテーション さいかい

2016年（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	年次計画金額	実績金額	差 異	計画達成率
4月	¥425,928	¥270,560	¥-155,368	63.5%
5月	¥414,116	¥300,160	¥-113,956	72.4%
6月	¥425,928	¥287,480	¥-138,448	67.5%
7月	¥425,928	¥724,064	¥298,136	170%
8月	¥425,928	¥794,200	¥368,272	186.5%
9月	¥425,928	¥773,660	¥347,732	181.6%
10月	¥425,928	¥744,060	¥318,132	174.7%
11月	¥414,116	¥777,880	¥363,764	187.8%
12月	¥425,928	¥755,540	¥329,612	177.4%
1月	¥414,116	¥661,320	¥247,204	159.7%
2月	¥425,928	¥468,036	¥42,108	109.9%
3月	¥437,740	¥661,320	¥223,580	151.1%
合計	¥5,087,512	¥7,218,280	¥2,130,768	141.9%

2017/3/1 現在（3月分は推定）

《2016年度重点項目に係る取り組み》

1 収入面の増収

(1) 天候に左右されない島内の訪問リハビリの増加

暴風雨や路面凍結等により、提供のキャンセルや中止せざるおえない状況があったが、早めに日時を変更し提供に繋げた。また、他事業所の事業縮小に伴って、新規利用者を獲得することができ収入増に繋がった。

(2) サービス提供体制加算の取得

新たな加算取得調整ができなかったため、体制整備を行い加算取得を目指す。

2 人財育成

理学療法士学会主催や行政通知による研修会への参加並びに参考書、文献及び電子媒体での最新情報の収集を行い自己研鑽を図った。また、在宅支援課全体での研修会及び勉強会を定期的に行いスキルアップに繋げた。

3 記録物の整備

年間を通して、記録物の精査と整理を行う事で、円滑に運営できるよう業務のスリム化・見える化を図った。

以上

社会福祉法人 福医会

西海無料低額事業部

さいかい クリニック

介護療養型老人保健施設さいかい

2016年度 事業報告書

2017年3月16日

作成責任者：無料低額部長 中尾 祐二

さいかいクリニック 2016 年度事業計画報告

1 2016 年度（4 月から 3 月）における事業実績

(1) 生活保護受給者及び無料低額診療利用患者の受診状況

診療月	クリニック		生活保護受給者		無料低額診療利用		率 (%)
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
4 月	676	33,514,909	42	520,720	1	1,040	1.6
5 月	641	25,794,593	30	262,030	1	3,400	1.0
6 月	682	27,058,021	29	364,020	1	4,720	1.4
7 月	684	26,010,737	32	937,552	1	3,120	3.6
8 月	701	29,149,187	29	943,910	1	3,400	3.2
9 月	650	26,613,845	26	401,358	1	3,120	1.5
10 月	639	27,224,030	26	314,930	1	3,120	1.2
11 月	652	25,455,197	27	860,726	2	18,760	3.5
12 月	648	27,523,147	27	336,344	1	3,900	1.2
1 月	648	27,004,557	29	545,304	1	12,400	2.1
2 月	671	27,276,336	32	446,300	1	14,240	1.7
3 月	672	27,165,732	27	347,060	1	24,970	1.4
合計	5,973	248,343,666	268	4,941,590	10	44,580	2.0
平均	664	27,593,741	30	549,066	1	4,953	

(2) 外来患者受診状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内	502	500	538	669	744	685	666	702	653	640	621	680	7,600
外	365	311	369	191	179	180	148	126	93	80	71	65	2,178
眼	124	108	122	143	150	133	120	112	100	75	126	140	1,453
リ	831	742	791	793	800	739	710	739	687	673	731	824	9,060
透	523	590	614	624	631	573	598	592	631	590	529	616	7,111
他	3	2	14	17	6	15	35	234	78	18	5	14	441
計	2,348	2,253	2,448	2,437	2,510	2,325	2,277	2,505	2,242	2,076	2,083	2,339	27,843

(3) 外来（透析科）における受診状況

診療月	患者	受診数	金額	1 人あたり金額
4 月	57	600	22,702,826	398,295
5 月	53	606	17,782,505	335,519
6 月	52	641	18,312,385	335,161
7 月	49	635	16,606,955	338,917
8 月	54	651	18,682,834	345,978

診療月	患者	受診数	金額	1人あたり金額
9月	47	611	16,499,786	351,059
10月	48	619	17,092,912	356,102
11月	46	610	16,339,820	355,213
12月	47	665	17,225,748	366,505
1月	52	624	19,836,137	381,464
2月	47	581	15,678,894	333,593
3月	43	638	16,701,306	388,402
合計	549	7481	197,122,288	359,057
平均	50	526	17,916,197	

2 重点取組項目について

(1) 無料低額診療事業の理解と推進

生活保護受給者とあわせクリニック全患者の1割以上を占めることにより実施することができる事業であるが、2016年4月から3月診療における当該利用率（件数ベース）については、2.0%と実施基準をみたせていない。このことから、2017年度も事業計画に掲げたが、法人事業所内における各施設利用者等に活用を推進し受診に繋げていく。

(2) 透析患者の利用推進と利便性の向上

透析患者については、2016年1月から新たに個人用透析器を1台増台し、現在26台の個人用透析器設置となっている。2015年度は延べ7,377名、2016年度については延べ7,481名の受診で順調に伸びてきているが、未だ西海市在住の方であっても遠方（長崎市や佐世保市）に受診している患者もいることから、医療ソーシャルワーカーを中心に行政との連携を密に取合うなど受診に繋げ、必要に応じ機器の増台を検討していく。

(3) 請求誤り等を無くした健全な運営

2016年4月診療分以降の請求誤りについては、医事課職員の知識向上並びに簡易ではあるが審査傾向の分析を行った結果、請求誤りにつきましては減少傾向にある。これに反し、単純な受診患者における種別コードの転記誤りが発生し、返戻として返されるレセプト件数が毎月発生して状況にある。このことから日常業務において、要点に注意し単純な誤りの発生防止に努め査定返戻減に取り組んでいく。

また、毎月20日（定期的）に勉強会を実施し、情報の共有、医学知識の向上及び請求誤り等を無くした健全な運営を行っていく。

(4) 効果的な送迎バスの運行

外来送迎に係るバス運行については、随時、送迎ルート及び時間等の変更を行っており、ほぼ満員の乗車をいただき効率的な運行ができています。今後も患者の利便性並びに曜日ごと及び午前午後の受診患者数の均等化が図れるように運行していく。

(5) 地域への貢献

2016 年度は整形外科診療に対する好評をいただき新規患者の獲得に繋がったことからこの点についての地域貢献はできたと考えている。しかしながら、内科医に対する悪評が後を立たない実情と収入実績の向上を図る上で早期にドクター調整等を行っていきたいと考えている。なお、地域の行事時等には積極的に参加・協力するなど、地域貢献をしていきたいと考えている。

(6) 休診時における検査体制

クリニック休診時等においても最低限の検査等が実施できるように、看護師を対象に夏冬の2回、使用医療機器に係る操作訓練を実施している。今後も患者における症状悪化の未然防止に努めるために定期的実施していく予定である。

(7) 経費削減及び業務の効率化に係る取り組み

ア 医薬品等の在庫管理

在庫管理ソフトを最大限活用しており、医薬品等の使用数量、発注数量、納品数量、在庫数量及び棚卸数量など適切に管理している。

イ 超過勤務

特に医事課において、パート職員従事者の割合が高く超過勤務時間の均整化がとれていない。特定の職員負担が大きくなっている傾向にあるので、事務分掌の見直しを行うなど、職員負担のバランスをとり超過勤務時間の短縮に繋げていきたいと考えている。

ウ 人件費

看護師について、午前、午後及び曜日ごとの受診患者数に注視し外来病棟の一元管理を行った。その結果、適切な人員が配置できる体制が整いつつある。2017 年度は訪問看護事業の新設を検討していることから、それについても適切な人員を配置したいと考えている。

エ 事務担当者

医療事務において各処理担当者が不在の場合であっても、処理が滞ることがないように、3 か月ごとにローテーションを行い不測の事態におけるバックアップ体制を整えている。

オ 診療費

レジスターにより医療費に係る日々の入出金の管理を適切に行っている。しかし、月別に診療報酬等に係る請求・支払額の管理を行う「請求・支払額決定書」について、作成の滞りがあることから改善策を検討し管理体制の強化も図っていく。

老健施設さいかい 2016 年度事業計画報告

1 2016 年度（4 月から 3 月）における事業実績

定量目標	常時 38.0 以上の入所者数維持（稼働率 92.5%） 平均介護度 3.0				
	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4 月	1,140	1,140	14,889,349	15,337,706	103.0%
5 月	1,178	1,211	15,736,662	17,519,504	111.3%
6 月	1,140	1,159	14,889,349	15,345,497	103.1%
7 月	1,178	1,216	15,736,662	15,741,835	100.1%
8 月	1,178	1,207	15,736,662	15,492,200	98.4%
9 月	1,140	1,196	14,889,349	16,950,677	113.8%
10 月	1,178	1,168	15,736,662	15,698,970	99.8%
11 月	1,140	1,094	14,889,349	14,531,247	97.6%
12 月	1,178	1,132	15,736,662	15,499,288	98.5%
1 月	1,178	1,151	16,133,076	15,319,143	95.0%
2 月	1,064	1,100	14,185,303	14,751,982	104.0%
3 月	1,178	1,195	16,133,076	16,185,274	100.3%
平均	1,156	1,164	15,684,062	15,697,777	100.1%
合計	13,870	13,969	188,208,739	188,373,323	100.1%

2016 年度については、人数及び金額についてもほぼ計画どおりの実績となった。しかしながら、前年度まで不安定な運営を行っていることから、2017 年度以降についても 2016 年度同様の運営継続を継続し事業の安定化に繋げる。

2 生活保護受給者及び無料低額診療利用患者の受診状況

提供月	老健		生活保護・無料低額利用		率(%)
	件数	金額	件数	金額	
4 月	43	15,337,706	1	433,460	2.8
5 月	48	17,519,504	1	447,780	2.6
6 月	40	15,345,497	1	433,460	2.8
7 月	42	15,741,835	1	447,780	2.8
8 月	42	15,492,200	4	1,463,620	9.4
9 月	46	16,950,677	2	904,134	5.3

提供月	老健		生活保護・無料低額利用		率(%)
	件数	金額	件数	金額	
10月	45	15,698,970	2	838,610	5.3
11月	42	14,531,247	2	811,690	5.6
12月	42	15,499,288	2	838,610	5.4
1月	45	15,319,143	2	838,610	5.5
2月	42	14,751,982	2	757,820	5.1
3月	44	16,185,274	2	815,050	5.0
合計	521	188,373,323	22	9,030,624	4.8
平均	43.4	15,697,777	1.8	752,552	

3 重点取組項目について

(1) 共通重点項目

ア 事業の安定化

定期的に他事業所等に周知し受入に関する業務の安定化に繋がった。今後も介護支援専門員・支援相談員を中心に他事業所等との連携・調整を定期的に行う。

サービス体制強化加算Ⅰイの算定、体制を整えた後、ターミナルケア加算の申請・算定を行い、収益の増加に繋がった。

不足人員補充と人員配置の見直しについては、運営上の不足人員の補充と人員配置の見直しをおこなったことにより運営面の安定化に繋げることができた。

設備、環境面については、備品や設備の老朽化、利用者の多様化が見られている為、2017年度においてもスムーズな受け入れに繋がられるように必要な環境整備を行い事業の安定化を図っていく。

運営会議を通じて統一した見解と役割の確認を行うなど職員の意識付けに繋がっていることから、今後も職員育成も通じて安定化を繋げていく。また、西海管理部の人材確保の計画に連携を行いながら人材確保に努めることが出来たのではないかと考えている。

イ 無料低額事業の周知・推進

10%以上の対象者の確保に至っていない。今後、対象者を拡大するなど規定の見直しを検討し、更にパンフレット等により広くPRし積極的に周知活動を行っていく。

オ 地域交流

小学校、中学校及び高校と見学や職場体験等を受入れてきた。しかしながら、これについては大島・崎戸地区の学校に留まっていることから

大瀬戸地区や小迎地区の学校等にも打診し交流を図っていく。

(2) 職種毎の業務重点取組項目

ア 介護支援専門員・支援相談員

(ア) 利用者の安定確保

常時38名（稼働率92.5% 平均介護度3.0）以上を目指すために、例年以上に地域連携室の池田 MSW 及び居宅支援事業とは随時連携を図りながら新規利用者の獲得に取り組んだ結果、目標達成に繋がった。

(イ) 在宅復帰への取り組み

入所検討会議、サービス担当者会議、利用継続検討会議において在宅復帰等の検討を綿密に行った。また、居宅ケアマネとの連携や退所前訪問指導加算、連携加算を算定する取り組みを行った。

(ウ) 行事

広報行事委員会の運営指導と推進、内部委員会が中心となって実施したが、誕生会は2か月毎の開催に留まり、予定したドライブも実施できなかったことから2017年度は問題解消したいと考えている。

(エ) レクリエーション・余暇活動

介護主任が中心となって時間を見つけて短時間で実施した為、定期的がなくランダムな実施に留まった。今後、他職種と協力しながら利用者の日常生活が活性化できる取り組みを定期的かつ継続的にできるような流れを作っていきたい。

(オ) サービス担当者会議等の充実

毎週火曜～木曜 16:00 から30分実施した。プラン内容の周知は各職で申し送り、朝礼で周知、家族への説明及び同意を実施してきたが、固定された日時での実施で、家族参加の呼びかけまでには至らなかった。このことから実施日について今後検討していく必要があると考えている。

イ 管理栄養士

(ア) 質の良い栄養ケアの提供について

多職種連携にて広い視野からの状態把握に努めている。また、嚥下研修会に参加し知識の習得に努めたほか、口腔嚥下機能状態に合わせた食環境づくりや対応を多職種連携で行えた。

(イ) 食堂の雰囲気作り・衛生管理について

介護職員にて季節に合わせた雰囲気づくりが行われているほか、衛

生面に関しては、主査が中心となり定期的に清掃業務を行うなど衛生管理に努めることができた。

(ウ) 「食」を通じて季節の雰囲気演出

1週間の献立掲示や当日の献立標記を行っている。嗜好調査について、実施結果を日清医療食品の栄養士へ伝えるなど改善を図ってきた。また、食事中の意見や喫食状況での情報収集を行い、法人栄養士で情報共有し検討した後、日清栄養士への伝達を行い改善に繋げている。

ウ 看護

(ア) 業務の見直し

申し送りを30分以内とし時間短縮に努めているほか、業務の効率化を図るなど継続して見直しを行っている。

(イ) 適切なカルテ等の記録整備について

カルテ等記録の充実を図り、無駄な記録による労力を割かれることのないように簡素化を図るとともに記録力を向上よう努めている。今後も6か月に1度は集中して記録をチェックする機会を設けるなど、確実に効果的なカルテ記録を行っていく。

(ロ) 褥瘡予防対策への取り組み

指針に基づき定期的に褥瘡リスクアセスメントを実施している。また、入所時および褥瘡の発生時や治療時など変化のあった際には、褥瘡リスクアセスメントを実施している。なお、下肢冷感、血行不良の出やすい時期は皮膚の観察を強化し、下肢の血行不良や冷感が強い利用者には適切な対応をとるよう努めている。

(ハ) 感染予防とまん延防止に向けた取り組み

看護職が中心となり、感染委員会にてポスターの掲示、マスク着用の呼びかけ等を行っている。ノロに対する処理キットも作成し研修会等で周知してきた。

(ニ) 重度化への対応

経管栄養者の肺炎が常態化している中、経管栄養中の角度・体向など特に考慮している。救急カートについては、点検表を作成し毎月第一土曜日に期限切れ等点検を行っている。

(ホ) 医薬品管理

医薬品備品は6か月に1回棚卸を行い管理しているが、2017年度については毎月実施することとし管理強化を図っていく。

エ 介護

(ア) コミュニケーション能力の向上

一部の利用者様とのコミュニケーションに留まっている、利用者に対する言葉かけや接し方を意識し、一部の関わりにならないよう非言語的コミュニケーションも活かしながら利用者に接していくこととする。

(イ) 生活リハビリへの意識と介護技術向上

日常の生活の中で活かされている動きや本人の意思・意欲の向上に意識を持ち、次の生活に繋がるように支援をおこなってきたが、2017年度は利用者への負担や自身への負担の軽減を図る為、ボディメカニクス等の介護技術を身に付けるなど質の高い支援に繋げていく。

(ウ) 記録力向上と書類整理

介護日誌の様式変更を行い全般的に介護の記録も出来るようになってきた。記録の方法等の見直しを随時行うなど良いケアにつなげていきたいと考えている。

(エ) 褥瘡予防への取り組み

褥瘡予防を中心として取り組んでいるが、委員会と看護師任せになっている状況である。今後、介護間でも状態を把握するように努めていく。

(オ) 感染等予防への取り組み

感染委員会を中心として周知され、職員一同で徹底し実行できている。

(カ) 個々の状況に配慮した入浴の提供

個々の状態に合わせ配慮した入浴が提供できるよう、専門職と連携しているが、1対1のケアや適した入浴方法が実施できず入所者職員ともに負担になっていることから事故のリスクが高まっている状況である。このことから、事故の防止と利用者に配慮した入浴が提供できるように改善を図っている。

(キ) 個別の状況に合わせた排泄ケアの徹底

日中の排泄は可能な限り、体調に合わせてトイレ誘導で排泄ができるようにしているが、自分で排泄する人への援助が十分できていないと感じる。ばらつきなくケアを提供できるよう十分に検討し徹底していく。

(ク) レクリエーションへの取り組み

毎日実施するようには心掛けているが業務多忙を理由に不定期的な実施に留まっている。また、レクの道具も少ないことから、2017年度は

ハード面を含めスキルアップ図っていけるよう取り組んでいく。

オ リハビリ職

年度頭書から毎日（日曜日も含む）短期集中リハビリテーション指導を実施でき、切れ間のないリハビリテーションが提供できており、それ以外の個別訓練利用者も週 2 回程度のリハビリテーションが実施され機能向上及び維持がなされている。また、次の生活を意識したリハビリテーションの為に退所前訪問指導を実施するなど、自宅改修や基本動作の介助方法を家族にアドバイスできており、サービス担当者会議・朝礼などで情報を集め、意思統一を図り反映できたほか、トランスファー技術の他職種への助言は、単に軽介助、全介助というような漠然的なものではなく、実際に見せる方法で行うことができている。